

◎指示があるまで開かないこと。

(平成 26 年 2 月 8 日 9 時 30 分 ~ 11 時 30 分)

## 注 意 事 項

1. 試験問題の数は 60 問で解答時間は正味 2 時間である。
2. 解答方法は次のとおりである。
  - (1) (例 1)、(例 2)の問題では a から e までの 5 つの選択肢があるので、そのうち質問に適した選択肢を(例 1)では 1 つ、(例 2)では 2 つ選び答案用紙に記入すること。なお、(例 1)の質問には 2 つ以上解答した場合は誤りとする。(例 2)の質問には 1 つ又は 3 つ以上解答した場合は誤りとする。

(例 1) 101 応招義務を規定して

いるのはどれか。

- a 刑 法
- b 医療法
- c 医師法
- d 健康保険法
- e 地域保健法

(例 2) 102 医師法で医師の義務とされて

いるのはどれか。2 つ選べ。

- a 守秘義務
- b 応招義務
- c 診療情報の提供
- d 医業従事地の届出
- e 医療提供時の適切な説明

(例 1)の正解は「c」であるから答案用紙の **c** をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

101  a  b  c  d  e

↓

101  a  b  c  d  e

答案用紙②の場合、

101	101
<input type="radio"/> a	<input type="radio"/> a
<input type="radio"/> b	<input type="radio"/> b
<input checked="" type="radio"/> c	<input checked="" type="radio"/> c
<input type="radio"/> d	<input type="radio"/> d
<input type="radio"/> e	<input type="radio"/> e

(例 2)の正解は「b」と「d」であるから答案用紙の **b** と **d** をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

102  a  b  c  d  e

↓

102  a  b  c  d  e

答案用紙②の場合、

102	102
<input type="radio"/> a	<input type="radio"/> a
<input type="radio"/> b	<input checked="" type="radio"/> b
<input type="radio"/> c	<input type="radio"/> c
<input type="radio"/> d	<input checked="" type="radio"/> d
<input type="radio"/> e	<input type="radio"/> e

(2) (例3)では質問に適した選択肢を3つ選び答案用紙に記入すること。なお、(例3)の質問には2つ以下又は4つ以上解答した場合は誤りとする。

(例3) 103 医師法に規定されているのはどれか。3つ選べ。

- a 医師の行政処分
- b 広告可能な診療科
- c 不正受験者の措置
- d へき地で勤務する義務
- e 臨床研修を受ける義務

(例3)の正解は「a」と「c」と「e」であるから答案用紙の **a** と **c** と **e** をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

103	<input type="radio"/> a	<input type="radio"/> b	<input type="radio"/> c	<input type="radio"/> d	<input type="radio"/> e
103	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> b	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> d	<input type="radio"/>

↓

答案用紙②の場合、

103	<input type="radio"/> a	<input type="radio"/>
	<input type="radio"/> b	<input type="radio"/> b
	<input type="radio"/> c	<input type="radio"/>
	<input type="radio"/> d	<input type="radio"/> d
	<input type="radio"/> e	<input type="radio"/>

→

(3) 選択肢が6つ以上ある問題については質問に適した選択肢を1つ選び答案用紙に記入すること。なお、(例4)の質問には2つ以上解答した場合は誤りとする。

(例4) 104 平成22年医師・歯科医師・薬剤師調査で人口10万人当たりの医師数が最も少ないのはどれか。

- a 北海道
- b 青森県
- c 茨城県
- d 埼玉県
- e 京都府
- f 和歌山県
- g 鳥取県
- h 徳島県
- i 佐賀県
- j 沖縄県

(例4)の正解は「d」であるから答案用紙の **d** をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

104	(a)	(b)	(c)	(d)	(e)	(f)	(g)	(h)	(i)	(j)
104	(a)	(b)	(c)	●	(e)	(f)	(g)	(h)	(i)	(j)

↓

答案用紙②の場合、

104	104
(a)	(a)
(b)	(b)
(c)	(c)
(d)	●
(e)	(e)
(f)	(f)
(g)	(g)
(h)	(h)
(i)	(i)
(j)	(j)

→

(4) 計算問題については、 に囲まれた丸数字に入る適切な数値をそれぞれ1つ選び答案用紙に記入すること。なお、(例5)の質問には丸数字1つにつき2つ以上解答した場合は誤りとする。

(例5) 105 動脈血ガス分析(room air)と血液生化学検査の結果を示す。

pH 7.41、PaCO<sub>2</sub> 41 Torr、PaO<sub>2</sub> 83 Torr、HCO<sub>3</sub><sup>-</sup> 25 mEq/l。

Na<sup>+</sup> 138 mEq/l、Cl<sup>-</sup> 101 mEq/l。

アニオンギャップを求めよ。

解答：   mEq/l

- |   |   |
|---|---|
| ① | ② |
| 0 | 0 |
| 1 | 1 |
| 2 | 2 |
| 3 | 3 |
| 4 | 4 |
| 5 | 5 |
| 6 | 6 |
| 7 | 7 |
| 8 | 8 |
| 9 | 9 |

(例5)の正解は「12」であるから①は答案用紙の  を②は  をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

105	①	0	●	2	3	4	5	6	7	8	9
	②	0	1	●	3	4	5	6	7	8	9

答案用紙②の場合、

105	①	②
	0	0
	●	1
	2	●
	3	3
	4	4
	5	5
	6	6
	7	7
	8	8
	9	9

注：例題の誤記を訂正。









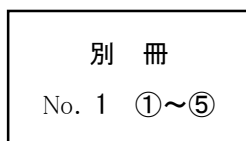






- 1 先天性風疹症候群でみられないのはどれか。
- a 大頭症
  - b 白内障
  - c 感音難聴
  - d 胎児発育不全
  - e 動脈管開存症
- 2 Kaposi 水痘様発疹症を合併しやすいのはどれか。
- a Sweet 病
  - b 結節性紅斑
  - c 多形滲出性紅斑
  - d アトピー性皮膚炎
  - e Stevens-Johnson 症候群
- 3 唇裂・口蓋裂の症候でないのはどれか。
- a 嚥下障害
  - b 外鼻変形
  - c 構音障害
  - d 歯列異常
  - e 扁桃肥大

- 4 縦隔腫瘍について正しいのはどれか。
- a 胸腺腫は後縦隔に好発する。
  - b 胸腺腫は良性腫瘍に属する。
  - c セミノーマは良性腫瘍に属する。
  - d 神経原性腫瘍は前縦隔に好発する。
  - e 胸腺腫には重症筋無力症を合併する。
- 5 上部消化管内視鏡像(別冊 No. 1 ①～⑤)を別に示す。  
0-II c型胃癌はどれか。
- a ①
  - b ②
  - c ③
  - d ④
  - e ⑤



- 6 外陰腔カンジダ症で誤っているのはどれか。
- a 癢痒を生じる。
  - b 帯下は泡沫状である。
  - c 抗菌薬服用後に多い。
  - d 原因菌は消化管に常在している。
  - e 腔分泌物の鏡検で菌糸が確認できる。

7 糖尿病と高血圧の両方をきたす疾患はどれか。

- a 肝硬変
- b 慢性膵炎
- c Cushing 病
- d グルカゴノーマ
- e Gitelman 症候群

8 5歳女児の左鼓膜の写真(別冊 No. 2)を別に示す。

治療として適切なのはどれか。

- a 抗菌薬投与
- b 鼓膜切開術
- c 鼓膜チューブ留置術
- d 鼓膜形成術
- e 鼓室形成術

別 冊

No. 2

9 旅行者疾患について正しいのはどれか。

- a 旅行者下痢症では発熱はない。
- b マラリアで死亡することはない。
- c 狂犬病は犬以外の動物からは感染しない。
- d デング熱のワクチンは実用化されていない。
- e 都道府県知事に届出義務のある疾患はない。

- 10 大量被ばく後の放射線障害で、最も遅く発現するのはどれか。
- a 紅斑
  - b 白内障
  - c 消化管出血
  - d 白血球減少
  - e 生殖機能障害
- 11 72歳の男性。散歩中に転倒し前頭部を打ったため心配になって来院した。10年前から高血圧症にて自宅近くの診療所に通院している。
- 転倒の原因を推論するための質問として有用性が低いのはどれか。
- a 「最近、食欲が増加しましたか」
  - b 「最近、内服薬が変わりましたか」
  - c 「転倒直前に動悸や胸痛はありましたか」
  - d 「転倒直前に目の前が真っ暗になりましたか」
  - e 「転倒直前に片側の手足の力が弱い感じはありましたか」
- 12 Stanford A型急性大動脈解離が原因とならないのはどれか。
- a 脳梗塞
  - b 緊張性気胸
  - c 急性冠症候群
  - d 心タンポナーデ
  - e 大動脈弁閉鎖不全

13 正常月経周期を有する女性の骨盤部 MRI の T2 強調矢状断像(別冊 No. 3)を別に示す。

この患者にみられる症状はどれか。

- a 頻尿
- b 排便痛
- c 過多月経
- d 下腹部腫瘤感
- e 不正性器出血

別冊

No. 3

14 アトピー性皮膚炎に伴う網膜剥離の種類はどれか。

- a 出血性
- b 牽引性
- c 漿液性
- d 滲出性
- e 裂孔原性

15 肝細胞癌に対する肝切除後に残存肝の再生を促すのはどれか。

- a 下 剤
- b 輸 血
- c 抗菌薬
- d 経口栄養
- e 抗悪性腫瘍薬

16 Crohn 病に特徴的なのはどれか。2つ選べ。

- a 敷石像
- b 輪状潰瘍
- c 小腸狭窄
- d 大腸黒皮症
- e 連続性病変

17 ネフローゼ症候群をきたしやすいのはどれか。2つ選べ。

- a アミロイド腎症
- b 腎硬化症
- c 多発性嚢胞腎
- d 膜性腎症
- e 慢性腎盂腎炎



18 同種骨髄移植から3週後にみられる移植片対宿主病(GVHD)の皮膚症状はどれか。2つ選べ。

- a 紅皮症
- b 皮膚硬化
- c 浮腫性紅斑
- d 多形皮膚萎縮
- e 扁平苔癬様皮疹

19 Parkinson 病の治療に用いられるのはどれか。2つ選べ。

- a ドパミン
- b ドパミン受容体遮断薬
- c ドパ脱炭酸酵素阻害薬
- d アセチルコリン分解酵素阻害薬
- e モノアミンオキシダーゼ B 阻害薬

20 疾患とその症候の組合せで正しいのはどれか。3つ選べ。

- a 先端巨大症 ————— 睡眠時無呼吸
- b 中枢性尿崩症 ————— 低張性脱水
- c Sheehan 症候群 ————— 乳汁漏出
- d Cushing 病 ————— 筋力低下
- e プロラクチノーマ ————— 不妊

21 21歳の男性。手指の震えを主訴に来院した。週に3日午前中、派遣先の大型塗料店で在庫管理の仕事をしている。4日前、離島でダイビングをしている時、水深21mまで潜ってから浮上する途中に、潜水の履歴から浮上の必要性や手順を計算するダイビングコンピュータから浮上を停止するよう指示を受けた。その際、一旦浮上を停止した後インストラクターの指示に従い浮上した。2日前もダイビングをした後、夕方ジェット旅客機に搭乗し帰宅した。帰路、天候が悪く機体の揺れのため席から離れることができなかった。就寝時、右中指の近位指節間関節が少し痛いのに気付いた。昨日も指先の感覚に違和感を覚えた。本日、字を書く時に指先が震えるため受診した。

最も考えられるのはどれか。

- a 減圧症
- b 動揺病
- c 頸肩腕障害
- d 有機溶剤中毒
- e VDT作業による障害

22 40歳の女性。呼吸困難を主訴に搬入された。約20分前、勤務中に突然息苦しさが出現した。半年前から、1か月に数回程度、突然息苦しさが出現し、同時に動悸、めまい感、悪心および意識を失いそうな恐怖を感じたという。いずれも10～30分で症状は完全に消えた。内科で精査したが発作時の心電図検査を含めて異常はみられていない。

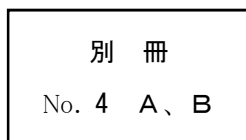
今後みられる可能性が高い症状はどれか。

- a 解離
- b 強迫
- c 失神
- d 過覚醒
- e 予期不安

23 38歳の男性。両眼の軽度霧視を訴えて来院した。霧視は2か月前から自覚し、頭痛を伴うという。矯正視力は右 1.0、左 0.9。両眼の眼底写真(別冊 No. 4A、B)を別に示す。

診断に有用なのはどれか。

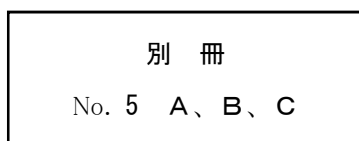
- a 眼圧測定
- b 頭部 MRI
- c 眼球運動検査
- d 眼球超音波検査
- e 蛍光眼底造影検査



24 48歳の女性。鼻閉を主訴に来院した。20年前から両側の鼻閉があり、風邪をひくと悪化した。鎮痛薬で気管支喘息を起こしたことがあった。左鼻腔の内視鏡像(別冊 No. 5A)を別に示す。右鼻腔も同様の所見である。副鼻腔単純 CT の水平断像(別冊 No. 5B)と冠状断像(別冊 No. 5C)を別に示す。

治療として最も適切なのはどれか。

- a 抗菌薬投与
- b 抗真菌薬投与
- c 拡大上顎全摘出術
- d 鼻内レーザー手術
- e 内視鏡下鼻副鼻腔手術



25 53歳の女性。持続する乾性咳嗽を主訴に来院した。2か月前に感冒様症状が出現し、咽頭痛と微熱とは消失したが、乾性咳嗽が持続している。数日前から、動悸、息苦しさ及び下腿の浮腫を自覚していた。既往歴と家族歴とに特記すべきことはない。喫煙歴はない。意識は清明。身長 157 cm、体重 57 kg。体温 36.5℃。脈拍 112/分、整。血圧 96/50 mmHg。呼吸数 20/分。SpO<sub>2</sub> 92 % (room air)。心音と呼吸音とに異常を認めない。左下腿に浮腫を認める。血液所見：赤血球 480 万、Hb 14.0 g/dl、Ht 42 %、白血球 6,500、血小板 26 万。血液生化学所見：総蛋白 7.4 g/dl、アルブミン 3.9 g/dl、AST 20 IU/l、ALT 12 IU/l、LD 296 IU/l(基準 176~353)、尿素窒素 10 mg/dl、クレアチニン 0.7 mg/dl、CEA 25 ng/ml(基準 5 以下)。喀痰細胞診で悪性細胞を認める。胸部エックス線写真(別冊 No. 6A)と胸部造影 CT(別冊 No. 6B)とを別に示す。

この患者にみられるのはどれか。

- a PaCO<sub>2</sub>は上昇する。
- b A-aDO<sub>2</sub>の開大を認める。
- c 肺血流シンチグラムは正常である。
- d 心エコー検査で左室の拡大を認める。
- e 血液検査所見でDダイマーは正常である。

別 冊

No. 6 A、B

26 71歳の男性。肺癌術後2日で入院中である。2日前、右上葉肺癌のため右上葉切除とリンパ節郭清術を行った。術中出血量は65 ml、手術時間は3時間10分だった。手術後の経過は順調で手術翌日から食事を開始した。しかし術後2日から胸腔ドレナージの排液量は500 mlに増加し、排液の性状は淡血性から黄白色混濁となった。喫煙は20本/日を50年間。意識は清明。身長160 cm、体重65 kg。体温37.0℃。脈拍84/分、整。血圧120/74 mmHg。呼吸数16/分。SpO<sub>2</sub> 98% (鼻カニューラ1 l/分 酸素投与下)。眼瞼結膜に貧血を認めない。頸静脈の怒張を認めない。心音に異常を認めないが、呼吸音は右側で軽度減弱している。血液所見：赤血球362万、Hb 12.4 g/dl、Ht 36%、白血球7,700、血小板25万。CRP 2.4 mg/dl。心電図に異常を認めない。術後2日のポータブル胸部エックス線写真(別冊 No. 7A)と胸腔ドレナージ排液(別冊 No. 7B)とを別に示す。

この患者の術後合併症として考えられるのはどれか。

- a 膿胸
- b 肺炎
- c 乳び胸
- d 無気肺
- e 気管支断端瘻

別冊 No. 7 A、B
-----------------

27 62歳の女性。健康診断で肝機能異常を指摘され来院した。自覚症状はない。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。血液所見：赤血球 407 万、Hb 13.0 g/dl、Ht 39 %、白血球 7,800、血小板 26 万。血液生化学所見：総ビリルビン 2.2 mg/dl、AST 160 IU/l、ALT 186 IU/l、ALP 1,652 IU/l(基準 115～359)、アミラーゼ 62 IU/l(基準 37～160)、CEA 2.9 ng/ml(基準 5 以下)、CA19-9 210 U/ml(基準 37 以下)。上部消化管内視鏡像(別冊 No. 8A)、ERCP(別冊 No. 8B)及び腹部造影 CT(別冊 No. 8C)を別に示す。

最も考えられるのはどれか。

- a 胆嚢癌
- b 膵体部癌
- c 肝門部胆管癌
- d 十二指腸球部癌
- e 十二指腸乳頭部癌

別 冊

No. 8 A、B、C

28 70歳の女性。左上腹部痛を主訴に来院した。昨夜、久しぶりに孫たちと遊んだり歌ったりして騒いだ。その3時間後から左上腹部に痛みを感じるようになった。診察室には前かがみの姿勢で入ってきた。食事摂取は良好であり、悪心や嘔吐はなく便秘も正常である。3年前に脳梗塞を発症し、その後アスピリンを内服している。体温 36.5℃。脈拍 88/分、整。血圧 140/90 mmHg。左上腹部に局限した圧痛を認めるが、反跳痛はない。腹筋を緊張させると疼痛と圧痛とは増強する。腸雑音は正常である。

最も考えられるのはどれか。

- a 急性膵炎
- b 腹壁血腫
- c 腸腰筋膿瘍
- d 虚血性大腸炎
- e 穿孔性胃潰瘍

29 46歳の男性。全身倦怠感、発熱および左季肋部違和感を主訴に来院した。4年前に慢性骨髄性白血病の慢性期の診断で1年間イマチニブ治療を受けていた。その後3年間受診せずそのままにしていた。末梢血血液検査で白血球 30,400、骨髄芽球が56%であった。末梢血白血球 bcr/abl FISH 法検査の写真(別冊 No. 9)を別に示す。

4年前と比較し、現在の患者の所見として考えられるのはどれか。

- a 脾腫の縮小
- b 血小板数増加
- c 骨髄細胞数減少
- d 染色体付加異常の出現
- e 好中球アルカリフォスファターゼ低値

別冊

No. 9

30 21歳の女性。下腹部のしこりを主訴に来院した。内診で子宮は正常大で、右付属器が手拳大に腫大していた。腫瘍マーカーは CA19-9 17.5 U/ml(基準 37 以下)、CA125 56.7 U/ml(基準 35 以下)、 $\alpha$ -フェトプロテイン(AFP) 960 ng/ml(基準 20 以下)。悪性卵巣腫瘍を疑い、右付属器切除術と大網切除術とを施行した。術中写真(別冊 No. 10A)と摘出腫瘍の H-E 染色標本(別冊 No. 10B)とを別に示す。

最も考えられるのはどれか。

- a 未熟奇形腫
- b 明細胞腺癌
- c 卵黄囊腫瘍
- d 顆粒膜細胞腫
- e ディスジャーミノーマ

別 冊 No. 10 A、B
-------------------



31 48歳の男性。最近落ち着きがないことを主訴に来院した。3か月ほど前から、歩くときに手が勝手に素早く動いてしまう、座っていると体幹が不規則に前後に揺れるなどを妻から指摘されている。このごろ理由なく激昂してしまう。顔面が不規則にしかめ面になり、構音はやや明瞭さを欠く。眼球運動障害はない。四肢の筋トーンは低下し、四肢体幹筋の素早い収縮による不随意運動があり、歩行時に著明になる。腱反射は正常、Babinski 徴候はみられない。12歳の息子が最近同一疾患を発症したことが疑われている。

本疾患と遺伝子変異様式が同一なのはどれか。

- a Wilson 病
- b Leigh 脳症
- c Gaucher 病
- d Machado-Joseph 病
- e Duchenne 型進行性筋ジストロフィー

32 57歳の男性。腰背部痛を主訴に来院した。1か月前に重いものを持ってから腰背部痛が出現した。自宅近くの診療所を受診し、第7胸椎椎体骨折でコルセットを装着した。2日前に腰痛が増悪し、第12胸椎、第1腰椎椎体骨折が認められたため、紹介されて受診した。最近、約3kgの体重減少があるという。血液所見：赤血球379万、Hb 12.1 g/dl、Ht 35%、白血球4,650、血小板10万。血液生化学所見：総蛋白11.7 g/dl、アルブミン3.3 g/dl、ALP 261 IU/l(基準115~359)、尿素窒素12 mg/dl、クレアチニン0.8 mg/dl、Ca 9.5 mg/dl、P 4.2 mg/dl。

多発脊椎椎体骨折の原因の精査に最も必要なのはどれか。

- a 尿中Ca定量
- b 頸部超音波検査
- c 血清免疫電気泳動
- d 消化管内視鏡検査
- e 胸部エックス線撮影

33 62歳の女性。交通事故で頭部を強く打って搬入された。搬入後、頭痛を訴え嘔吐を繰り返しているうちに意識レベルが低下し、JCSⅢ-100となった。右瞳孔が散大し、対光反射が消失している。心拍数62/分、整。血圧180/90 mmHg。呼吸数24/分。SpO<sub>2</sub> 99%(マスク6 l/分 酸素投与下)。

診断のためにまず行うべきなのはどれか。

- a 頭部CT
- b 脳波検査
- c 腰椎穿刺
- d 脳血管造影
- e 脳血流SPECT

34 36歳の女性。分娩後の頭痛と視野障害を主訴に来院した。妊娠28週ころから頭痛、30週から左眼の視野障害が出現した。多尿や多飲はない。身長165cm、体重62kg。脈拍76/分、整。血圧118/74mmHg。眼瞼結膜と眼球結膜とに異常を認めない。対面法による視野検査により両耳側に欠損を認める。尿所見：比重1.024、蛋白(-)、糖(-)。血液生化学所見：AST 33 IU/l、ALT 17 IU/l、クレアチニン 0.6 mg/dl、血糖 92 mg/dl、総コレステロール 124 mg/dl、Na 140 mEq/l、K 3.8 mEq/l、Cl 104 mEq/l、アンジオテンシン変換酵素(ACE) 18 U/l(基準 8.3~21.4)、TSH 0.15  $\mu$ U/ml(基準 0.2~4.0)、FT<sub>4</sub> 0.74 ng/dl(基準 0.8~2.2)、ACTH 11.4 pg/ml(基準 60以下)、コルチゾール 1.8  $\mu$ g/dl(基準 5.2~12.6)、GH 2.7 ng/ml(基準 5以下)、IGF-I 164 ng/ml(基準 112~271)、プロラクチン 25.4 ng/ml(基準 15以下)。免疫血清学所見：CRP 0.3 mg/dl、抗サイログロブリン抗体 24 U/ml(基準 0.3以下)。頭部単純MRIのT1強調矢状断像(別冊 No. 11A)と頭部造影MRIのT1強調冠状断像(別冊 No. 11B)を別に示す。

最も考えられるのはどれか。

- a 髄膜腫
- b 下垂体腺腫
- c 頭蓋咽頭腫
- d サルコイドーシス
- e リンパ球性下垂体炎

別冊 No. 11 A、B
------------------

35 76 歳の女性。見えにくいことを主訴に来院した。10 年前に糖尿病を指摘され経口血糖降下薬を内服している。起床時に物が二重に見えることに気付き受診した。意識は清明で頭痛はなく、複視は左方視で増強する。眼瞼下垂はない。瞳孔径は両側 3 mm で対光反射は正常である。四肢筋力低下はなく、手袋靴下型の軽度の表在・深部感覚低下を認める。四肢の腱反射は全体に左右差なく減弱している。来院時血糖 112 mg/dl、HbA1c(NGSP) 6.4 % (基準 4.6~6.2)。正面視を指示した際の眼位(別冊 No. 12)を別に示す。

正しいのはどれか。

- a 右外転神経の麻痺がある。
- b 抗 GQ1b 抗体が陽性になる。
- c 脳動脈瘤による圧排が原因として考えられる。
- d 速やかに副腎皮質ステロイドのパルス療法を行う。
- e 複視の予後は良好である。

別 冊

No. 12

36 24 歳の男性。臨床研修医。HIV 感染者の採血で用いた針を誤って自分の指に刺した。同部位に出血はない。既往歴に特記すべきことはない。

投与が推奨されるのはどれか。

- a 抗 HIV 薬
- b HIV ワクチン
- c 免疫グロブリン
- d インターフェロン
- e 副腎皮質ステロイド

37 78歳の男性。微熱と血痰とを主訴に来院した。2か月前から咳嗽と喀痰とを自覚していた。1か月前から微熱と全身倦怠感とを自覚するようになり、1週間前から血痰が出現するようになったため自宅近くの医療機関を受診し、胸部エックス線写真と胸部単純CTにて異常を指摘された。カルバペネム系抗菌薬で治療されたが改善がないため紹介されて受診した。既往歴に特記すべきことはない。身長 162 cm、体重 60 kg。体温 37.6 °C。脈拍 72/分、整。血圧 112/68 mmHg。呼吸数 16/分。SpO<sub>2</sub> 97 % (room air)。心音と呼吸音とに異常を認めない。血液所見：赤血球 418 万、Hb 14.5 g/dl、Ht 41 %、白血球 9,300 (桿状核好中球 10 %、分葉核好中球 45 %、好酸球 1 %、単球 10 %、リンパ球 34 %)、血小板 34 万。CRP 5.0 mg/dl。自宅近くの医療機関での胸部エックス線写真(別冊 No. 13A)と肺野条件の胸部単純CT(別冊 No. 13B)とを別に示す。

確定診断に有用な検査はどれか。

- a 結核菌特異的全血インターフェロン $\gamma$ 遊離測定法 (IGRA)
- b 喀痰抗酸菌 PCR 法
- c 喀痰塗抹検査
- d 喀痰嫌気培養
- e PET/CT

別 冊

No. 13 A、B

38 78歳の女性。手指振戦と動作緩慢とを主訴に来院した。1年前から手指の震えが出現し、次第に動作が緩慢になっていた。半年前から物忘れを自覚していた。1か月前から、誰もいないのに「人が座っている」と訴えたり、「蛇がいる」と怖がったりするようになったため、1週前にリスペリドンを少量投与したところ、四肢の筋強剛と流涎とを認めるようになった。

この疾患にみられるのはどれか。

- a 側頭葉内側の萎縮
- b 後頭葉の糖代謝の亢進
- c 後部帯状回の血流低下
- d 心臓交感神経機能の亢進
- e 基底核ドパミン取り込みの低下

39 63歳の女性。隣家とのトラブルを主訴に家族に連れられて来院した。大学卒業後結婚し、主婦として問題なく過ごしていた。60歳ころから、明らかな誘因なく隣家の男性が家の中を覗いていると言うようになり、警察に相談することがあった。さらに、変な薬を家の中に送り込んで殺そうとしていると言うようになり、頻回に隣家に抗議し、隣家の前で罵倒することもあった。昨日は包丁を持って隣家に入り込み、警察沙汰になった。受診時、病識は欠如していた。身体的に明らかな問題は認められなかった。医療保護入院となり、一時拒薬がみられたものの抗精神病薬により約1か月で病的体験は軽減し、2回の外泊でも問題となる行動は示さなかった。また家事を以前と同じようにこなすこともできたことから退院することになった。

退院時の家族に対する説明として適切なのはどれか。

- a 「精神病症状は再燃する可能性があります」
- b 「服薬は患者自身に任せておけば大丈夫です」
- c 「今後自閉的な傾向が現れてくる可能性が高いと思います」
- d 「妄想については、現実ではないと説得し続けてください」
- e 「リハビリテーションのためにデイケアに通所しなければなりません」

40 78歳の男性。2日後の胃癌の手術のため入院中である。主治医が両手の皮疹に気付いた。本人に聞くと、1か月前から痒みが強く、市販の止痒薬を外用していたが軽快しなかったという。他の部位に皮疹はない。左手の写真(別冊 No. 14A)と鱗屑の苛性カリ(KOH)直接鏡検標本(別冊 No. 14B)とを別に示す。

皮疹に対する治療のほかに、対応として適切なのはどれか。

- a 手術を延期する。
- b 病室を閉鎖する。
- c 衣類を熱湯消毒する。
- d 病室に殺虫剤を散布する。
- e 接触した職員の皮疹の有無を確認する。

別 冊 No. 14 A、B
-------------------

41 40歳の男性。乏尿と呼吸困難とを主訴に救急外来を受診した。既往歴に特記すべきことはない。意識は清明。冷汗と下腿浮腫とを認める。Ⅲ音とⅣ音とを聴取する。両側の胸部に coarse crackles を聴取する。脈拍 108/分、整。血圧 72/50 mmHg。呼吸数 28/分。血液生化学所見：クレアチニン 1.8 mg/dl、Na 134 mEq/l、K 3.8 mEq/l、Cl 100 mEq/l、脳性ナトリウム利尿ペプチド(BNP) 840 pg/ml(基準 18.4 以下)。動脈血ガス分析(room air)：pH 7.32、PaCO<sub>2</sub> 30 Torr、PaO<sub>2</sub> 62 Torr、HCO<sub>3</sub><sup>-</sup> 15 mEq/l。心エコー図(傍胸骨左縁長軸像)(別冊 No. 15A、B)を別に示す。

まず投与すべき治療薬で適切なのはどれか。

- a β遮断薬
- b ドパミン
- c ジギタリス
- d ニトログリセリン
- e アンジオテンシン変換酵素(ACE)阻害薬

別 冊 No. 15 A、B
-------------------



42 76歳の女性。高血圧、脂質異常症および陳旧性心筋梗塞の定期受診のため来院した。5年前に急性心筋梗塞と診断され、経皮的冠動脈インターベンションを受けている。以後、胸痛発作はないが、階段や長く歩いたときに息切れを感じている。脈拍64/分、整。血圧122/80 mmHg。呼吸数14/分。SpO<sub>2</sub> 97% (room air)。頸静脈の怒張を認めない。左側臥位でIV音を聴取する。呼吸音に異常を認めない。両側の下肢に軽度の浮腫を認める。本日の心電図(別冊 No. 16)を別に示す。

患者への説明として適切なのはどれか。

- a 「脈が速すぎるようです」
- b 「左脚ブロックが認められます」
- c 「心房細動の状態になっています」
- d 「高血圧による左室肥大が認められます」
- e 「心筋梗塞のあとが左心室の前側と下側にあります」

別 冊  
No. 16

43 64歳の男性。定期的な経過観察のため来院した。自覚症状はないが、1年前の健康診断で GIST (gastrointestinal stromal tumor) を疑われ、経過観察のため受診した。上部消化管内視鏡像(別冊 No. 17A)と腹部造影 CT(別冊 No. 17B)とを別に示す。1年前と比較して約 1.5 倍の直径であった。腹部造影 CT では胃病変を認めるが、胃以外に異常はない。

治療として適切なのはどれか。

- a 抗癌化学療法
- b 放射線療法
- c 胃局所切除術
- d 噴門側胃切除術
- e 胃全摘術

別 冊

No. 17 A、B

44 出生直後の男児。在胎 39 週、2,850 g で出生した。Apgar スコアは 8 点(1 分)、10 点(5 分)。出生前の胎児超音波検査で異常を指摘されたことはない。顔貌は正常。尿中に胎便が認められた。会陰部の写真(別冊 No. 18)を別に示す。

まず行うべき治療として適切なのはどれか。

- a 会陰切開
- b 尿道ブジー
- c 膀胱瘻造設
- d 人工肛門造設
- e 一期的根治手術

別 冊  
No. 18

45 30歳の女性。定期受診で来院した。18歳の時に学校検尿で尿蛋白と尿潜血とを指摘され、腎生検を行いIgA腎症と診断されたが特に治療しなかった。25歳の第1子の妊娠時に高血圧を指摘され、第1子を出産後からアンジオテンシンⅡ受容体拮抗薬で治療していた。半年前、第2子を希望しIgA腎症の評価のため腎生検を実施した。その後アンジオテンシンⅡ受容体拮抗薬を中止し、ヒドララジンにより治療していた。1週前に妊娠が判明したという。血圧134/74 mmHg。下肢に浮腫を認めない。尿所見：蛋白3+、潜血3+。血液生化学所見：尿素窒素17 mg/dl、クレアチニン1.1 mg/dl。eGFR 46 ml/分/1.73 m<sup>2</sup>。半年前に施行した腎生検のMasson-Trichrome染色標本(別冊 No. 19)を別に示す。

この患者への説明で正しいのはどれか。

- a 「降圧薬は中止します」
- b 「人工妊娠中絶が必要です」
- c 「慢性腎臓病の病期Ⅳです」
- d 「腎機能が悪化するリスクが高いです」
- e 「副腎皮質ステロイドの大量療法が必要です」

別 冊  
No. 19

46 67歳の女性。右背部痛と発熱とを主訴に来院した。今朝、右背部に一過性の強い痛みを自覚した。夕方から発熱が出現し、ふらつきも自覚したため受診した。右の側腹部から背部にかけて自発痛がある。30歳ころから数年に一度の尿管結石の発作の既往がある。55歳から糖尿病を指摘されていたがそのままにしていた。意識は清明。身長157 cm、体重68 kg。体温39.8℃。脈拍112/分、整。血圧94/52 mmHg。呼吸数18/分。右肋骨脊柱角に叩打痛を認める。尿所見：蛋白1+、糖3+、潜血3+、沈渣に赤血球15~30/1視野、白血球多数/1視野、細菌2+。血液所見：赤血球343万、Hb12.6 g/dl、Ht35%、白血球17,800(桿状核好中球10%、分葉核好中球75%、好酸球1%、単球2%、リンパ球12%)、血小板8.0万。血液生化学所見：総蛋白6.4 g/dl、アルブミン3.3 g/dl、AST124 IU/l、ALT118 IU/l、LD466 IU/l(基準176~353)、尿素窒素34 mg/dl、クレアチニン1.8 mg/dl、尿酸6.8 mg/dl、血糖188 mg/dl、HbA1c(NGSP)7.2%(基準4.6~6.2)、Na132 mEq/l、K4.8 mEq/l、Cl101 mEq/l。CRP24 mg/dl。来院時の腹部単純CT(別冊 No. 20 A、B)を別に示す。2セットの血液培養を行い抗菌薬の点滴静注を開始した。

次に行うべき治療として適切なのはどれか。

- a 血液透析
- b 腎瘻造設術
- c 尿管ステント留置
- d 経尿道的尿管砕石術
- e 体外衝撃波結石破碎術

別 冊

No. 20 A、B

47 72歳の男性。人間ドックでPSA 8.3 ng/ml(基準 4.0 以下)を指摘されたため来院した。PSA を再検したところ 8.4 ng/ml であった。直腸指診で、小鶏卵大、弾性硬および表面平滑の前立腺を触知するが、明らかな硬結は認めない。腹部超音波検査で前立腺体積は 32 ml であった。

次に行う検査として適切なのはどれか。

- a 尿細胞診
- b 腹部単純 CT
- c 前立腺針生検
- d 骨シンチグラフィ
- e 逆行性尿道膀胱造影

48 75歳の女性。左手関節部の腫脹と疼痛を主訴に来院した。歩行中につまずき左手をついて転倒したとのことである。手関節部以外に外傷はなく、他に治療中の疾患はない。手関節部から手指まで高度の腫脹を認めた。来院時のエックス線写真(別冊 No. 21)にて骨折を認めた。伝達麻酔下に徒手整復し手関節屈曲尺屈位で良好な整復位が得られ、その位置で肘上から手指までのギプス固定を行った。消炎鎮痛薬を処方し帰宅させたが、6時間後に手指の腫脹が進行し指尖が暗紫色となり消炎鎮痛薬が無効な強い疼痛を訴えて受診した。

対応として最も適切なのはどれか。

- a 患肢挙上
- b ギプス除去
- c オピオイド投与
- d ウロキナーゼ投与
- e 星状神経節ブロック

別 冊

No. 21

49 4歳の男児。下肢の変形と歩容異常とに気付いた母親に連れられて来院した。正常分娩で出生。出生時体重3,375g。頸定は3か月、歩行開始は1歳3か月であった。母親によると患児には食物アレルギーがあり、肉類、魚類、牛乳、卵を摂取させていないという。下肢の変形があり、歩行は不安定で跛行を認める。血液所見：赤血球435万、Hb 12.0 g/dl、Ht 38%、白血球6,840、血小板23万。血液生化学所見：ALP 3,305 IU/l(基準296~909)、Ca 8.6 mg/dl、P 2.3 mg/dl。来院時の両膝部(別冊 No. 22A)と下肢(別冊 No. 22B)のエックス線写真を別に示す。

治療薬として最も適切なのはどれか。

- a 鉄 剤
- b 亜鉛製剤
- c リン製剤
- d カルシウム製剤
- e ビタミンD製剤

別 冊  
No. 22 A、B

50 42歳の女性。顔面と四肢の皮疹および易疲労感を主訴に来院した。1か月前から顔面と四肢とに紅斑が出現した。2週前から易疲労感があり、軽度ではあるが四肢の近位に筋肉痛も自覚していた。意識は清明。身長158cm、体重64kg。体温37.4℃。脈拍72/分、整。血圧138/82mmHg。呼吸数16/分。顔面と四肢伸側に紅斑を認める。尿所見：蛋白(-)、糖(-)。赤沈58mm/1時間。血液所見：赤血球380万、Hb10.8g/dl、Ht36%、白血球9,400、血小板32万。血液生化学所見：総蛋白6.8g/dl、アルブミン2.8g/dl、AST112IU/l、ALT38IU/l、LD620IU/l(基準176~353)、ALP256IU/l(基準115~359)、 $\gamma$ -GTP32IU/l(基準8~50)、CK320IU/l(基準30~140)、尿素窒素24mg/dl、クレアチニン0.6mg/dl。CRP0.8mg/dl。右手背の写真(別冊No. 23)を別に示す。

この疾患に最も特異度が高い自己抗体はどれか。

- a 抗Jo-1抗体
- b 抗dsDNA抗体
- c 抗セントロメア抗体
- d 抗カルジオリピン抗体
- e 抗トポイソメラーゼI抗体

別 冊

No. 23



51 60歳の男性。発熱と全身の皮疹を主訴に来院した。15日前に山へ山菜採りに行った。5日前から発熱があり、3日前から全身に皮疹が出現していた。体温 39.5℃。全身に痒みのない紅色丘疹が多発し、右下腿には黒褐色の痂皮が付着した紅斑を認める。血液所見：赤血球 436 万、Hb 13.6 g/dl、Ht 42 %、白血球 6,800、血小板 32 万。血液生化学所見：AST 120 IU/l、ALT 110 IU/l。CRP 3.5 mg/dl。胸腹部(別冊 No. 24A)と右下腿(別冊 No. 24B)の写真を別に示す。

治療薬として適切なのはどれか。

- a 抗真菌薬
- b 抗ウイルス薬
- c 副腎皮質ステロイド
- d ペニシリン系抗菌薬
- e テトラサイクリン系抗菌薬

別冊 No. 24 A、B
------------------

52 30歳の男性。乾性咳嗽と労作時呼吸困難とを主訴に来院した。8か月前と4か月前に発熱と咳嗽とを自覚し、自宅近くの診療所で急性気管支炎と診断されて抗菌薬を投与され、5日ほどで軽快した。2か月前から乾性咳嗽を自覚し同じ診療所で鎮咳薬を処方されたが改善しなかった。2週間前から労作時呼吸困難を自覚するようになり受診した。意識は清明。身長170 cm、体重69 kg。体温36.3℃。脈拍80/分、整。血圧110/68 mmHg。呼吸数22/分。SpO<sub>2</sub> 98% (room air)。舌に白苔を認める。心音と呼吸音とに異常を認めない。血液所見：赤血球480万、Hb 15.2 g/dl、Ht 43%、白血球4,800(桿状核好中球5%、分葉核好中球74%、好酸球3%、好塩基球1%、単球7%、リンパ球10%)、CD4陽性細胞数60/mm<sup>3</sup>(基準800~1,200)、血小板19万。血液生化学所見：総ビリルビン0.6 mg/dl、AST 36 IU/l、ALT 15 IU/l、LD 418 IU/l(基準176~353)、尿素窒素9 mg/dl、クレアチニン0.8 mg/dl、KL-6 2,450 U/ml(基準500未満)。免疫血清学所見：CRP 0.4 mg/dl、β-D-グルカン540 pg/ml(基準10以下)。動脈血ガス分析(room air)：pH 7.46、PaCO<sub>2</sub> 38 Torr、PaO<sub>2</sub> 93 Torr、HCO<sub>3</sub><sup>-</sup> 26 mEq/l。胸部エックス線写真で淡いすりガラス陰影を認める。肺野条件の胸部単純CT(別冊 No. 25A、B)を別に示す。

治療薬として適切なのはどれか。

- a ニューキノロン系抗菌薬
- b アムホテリシンB
- c ガンシクロビル
- d オセルタミビル
- e ST合剤

別冊 No. 25 A、B
------------------

53 24歳の女性。目がチカチカして頭が痛いと訴え来院した。事務職として働いている職場で4週前に改築工事が行われ、その後から職場で刺激臭を感じ結膜刺激症状と頭痛が生じるようになったという。帰宅してしばらくすると症状は軽快する。席が近い職場の同僚2人も同じような症状を訴えている。

対応として適切なのはどれか。

- a 心理カウンセリングを勧める。
- b 保健所の相談窓口を紹介する。
- c 水道の化学物質濃度測定を指示する。
- d 換気せず窓を閉め切るように指導する。
- e 改築工事を施工した会社の産業医に連絡する。

54 62歳の男性。今年健康診断で高血糖を指摘され来院した。10年前から健康診断で毎年、高血糖と高血圧とを指摘されていたが受診しなかった。喫煙は15本/日を40年間。身長168cm、体重70kg、腹囲88cm。脈拍80/分、整。血圧188/96mmHg。心音と呼吸音とに異常を認めない。下腿に浮腫を認めない。アキレス腱反射は両側で消失している。尿所見：蛋白2+、糖4+、ケトン体(-)。血液生化学所見：アルブミン3.8g/dl、AST36IU/l、ALT45IU/l、尿素窒素16mg/dl、クレアチニン0.8mg/dl、尿酸8.3mg/dl、空腹時血糖212mg/dl、HbA1c(NGSP)9.8%(基準4.6~6.2)、トリグリセリド170mg/dl、LDLコレステロール139mg/dl、Na139mEq/l、K4.8mEq/l、Cl104mEq/l。眼底検査で単純網膜症を認める。摂取エネルギーと塩分とを制限する食事療法と運動療法とを開始した。

治療薬として適切なのはどれか。

- a アンジオテンシンⅡ受容体拮抗薬
- b サイアザイド系利尿薬
- c スピロノラクトン
- d ループ利尿薬
- e  $\beta$ 遮断薬

55 12歳の女兒。7日前からの発熱と全身の倦怠感を主訴に来院した。生来健康であった。2週間前から活気のないことに家族が気付いていた。7日前から発熱し、自宅近くの診療所で抗菌薬を投与されたが改善しなかった。顔色は不良である。腹部では肝臓を右季肋下に4 cm、脾臓を左季肋下に2 cm 触知する。血液所見：赤血球316万、Hb 6.4 g/dl、Ht 27 %、白血球32,000(異常細胞65 %)、血小板2.3万。LD 3,015 IU/l(基準176~353)。骨髄穿刺所見：細胞数60万/mm<sup>3</sup>(基準10万~25万)(異常細胞98 %)、異常細胞のペルオキシダーゼ染色は陰性、表面抗原検査はCD10とCD19は陽性、CD3とCD13は陰性。

この疾患の予後に影響する因子はどれか。2つ選べ。

- a LD値
- b 性別
- c 年齢
- d 白血球数
- e 骨髄の異常細胞比率

56 21歳の女性。5日前から持続する咽頭痛を主訴に来院した。開口は25mmで嚥下困難を認めた。呼吸困難はない。体温38.0℃。脈拍92/分、整。血圧120/80mmHg。血液所見：赤血球353万、Hb10.9g/dl、Ht33%、白血球17,400(桿状核好中球15%、分葉核好中球72%、単球4%、リンパ球9%)、血小板33万。CRP15mg/dl。口腔内の写真(別冊No. 26A)と頸部造影CT(別冊No. 26B、C)とを別に示す。

対応として適切なのはどれか。2つ選べ。

- a 気管挿管
- b 抗菌薬投与
- c 咽頭切開排膿
- d 抗ウイルス薬投与
- e 経皮的頸部穿刺排膿

別冊

No. 26 A、B、C

57 52歳の男性。階段昇降などの労作時での息切れを主訴に来院した。心臓の聴診にて左鎖骨中線第5肋間を最強とする汎く全収縮期雑音とⅢ音、Ⅳ音を聴取する。心エコー図(別冊 No. 27A、B)を別に示す。

治療法として考えられるのはどれか。2つ選べ。

- a 左室形成術
- b 僧帽弁形成術
- c 僧帽弁置換術
- d 僧帽弁交連切開術
- e 冠動脈バイパス手術

別冊 No. 27 A、B
------------------

58 67歳の女性。1週間からの発熱を主訴に来院した。両側の頸部と鼠径部に径1～2 cmのリンパ節を数個ずつ触知する。右肋骨弓下に肝を2 cm、左肋骨弓下に脾を3 cm触れる。血液所見：赤血球360万、Hb 12.0 g/dl、Ht 34%、白血球22,000(桿状核好中球4%、分葉核好中球21%、好酸球1%、好塩基球1%、単球2%、リンパ球39%、異型リンパ球32%)、血小板14万。血液生化学所見：AST 38 IU/l、ALT 41 IU/l、LD 2,403 IU/l(基準176～353)。免疫血清学所見：CRP 0.6 mg/dl、抗HTLV-1抗体陽性。末梢血塗抹May-Giemsa染色標本(別冊No. 28)を別に示す。

この患者にみられる所見として考えられるのはどれか。2つ選べ。

- a 血清Ca高値
- b CD4/CD8低値
- c 直接Coombs試験陽性
- d 可溶性IL-2受容体高値
- e CD20陽性リンパ球増多

別 冊

No. 28

59 64歳の女性。乳がん検診のマンモグラフィで異常を指摘され来院した。左乳房に長径約2 cmの腫瘍を触知する。腫瘍は境界不明瞭で硬く圧痛を認めない。乳頭からの分泌物を認めない。マンモグラム(別冊 No. 29)を別に示す。

次に行うべき検査として適切なのはどれか。2つ選べ。

- a 血管造影
- b 乳管造影
- c 経皮的針生検
- d 乳房超音波検査
- e 骨シンチグラフィ

別 冊 No. 29
---------------



60 58歳の男性。頑固な不眠と日中の眠気とを主訴に妻に伴われて来院した。2年前から熟睡感がないと訴えるようになり、日中の疲労感が強く、よく居眠りをするようになった。職場では上司から仕事の能率低下を指摘されている。妻によると、2年前から夜間のいびきがひどく、時々呼吸が止まったようになるとのことであった。意識は清明。抑うつ気分や不安を認めない。身長 165 cm、体重 90 kg。体温 36.7℃。脈拍 88/分、整。血圧 140/88 mmHg。呼吸数 14/分。SpO<sub>2</sub> 96 % (room air)。咽喉頭に異常を認めない。心音と呼吸音とに異常を認めない。ポリソムノグラフィにて無呼吸指数 48(基準 5 未満)。

この患者に行うべき対応として適切なのはどれか。3つ選べ。

- a 体重の減量
- b 口腔内装具
- c 間欠的強制換気(IMV)
- d 持続的気道陽圧法(CPAP)
- e ベンゾジアゼピン系薬投与













